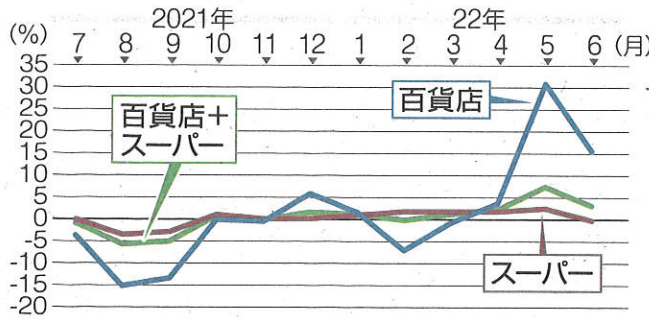


6月中国地方大型小売店販売 百貨店15・5%増

行動制限緩和で客足回復

中国経済産業局は6月の中国地方大型小売店販売動向(速報)をまとめた。新型コロナウイルス対策の行動制限緩和によって客足が



中国地方の大型小売店販売額の対前年比推移

中国地方小売りの6月販売概要

店種	販売額(単位100万円)	前年同月比(%)	動向
百貨店+スーパー	79,406	3.1	4カ月連続↑
百貨店	18,609	15.5	3カ月連続↑
スーパー	60,796	▲0.2	9カ月ぶり↓
コンビニエンスストア	54,524	4.3	7カ月連続↑
ホームセンター	18,603	▲0.8	2カ月連続↓
家電量販店	20,806	0.5	3カ月ぶり↑
ドラッグストア	34,628	5.2	6カ月連続↑
総計	207,967	3.1	7カ月連続↑

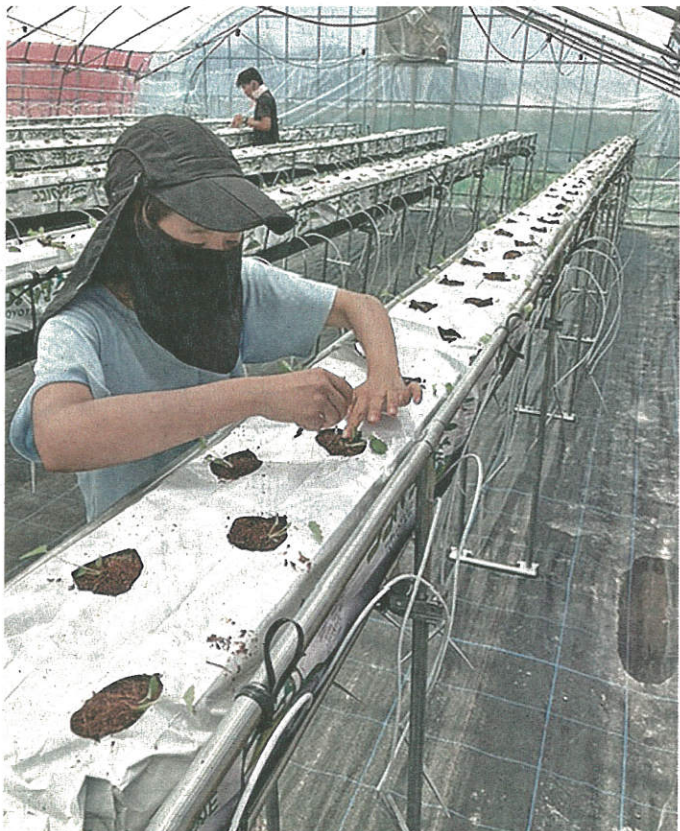
3・1%増の794億600万円と、4カ月続けて前年を上回った。小売り6業態(概要は別表)の総計は3・1%増の2079億6700万円、7カ月連続でプラス。スーパー、ホームセンターを除く4業態で上昇し、個人消費の判断は前月引き上げた「持ち直しの動きがみられる」を維持した。

百貨店(14店)は、気温上昇を受けて夏物衣料が好調。スーパー(325店)は生鮮食品が伸び悩んだ一方、タオルやステンレスボトルが売れた。異別では岡山(117店)が1・7%増の239億6400万円、広島(112店)は6・4%増の341億4400万円。

ドラッグストア(948店)は新店や改装効果で食品が堅調だったほか、日焼け止めや制汗剤が伸びた。コンビニエンスストア(3072店)は、おにぎりや菓子パン、冷やし麺の販売が増えた。

ホームセンター(402店)は扇風機やレジャー家電が好調な

イチゴ生産に着手



ど根性ファームのビニールハウスで行われたイチゴの苗の植え付け作業

障害者を雇用し、青ネギの栽培、加工を手掛ける農業法人・ど根性ファーム(倉敷市茶屋町)はイチゴの生産を始めた。同ファームは障害者が生産や加工に携わった食品を示す日本農林規格「ノウフクJAS」の認証を昨年秋に取得。同規格の認証を受けている他の農業生産法人とともに飲食店などに売り込み、障害者就労への理解を呼び掛けることも販路の拡大を狙う。(小野寺万由子)

ど根性ファーム おおもり農園と連携

同ファームは、デイサービス施設などを岡山県内外で展開する介護サービス業・創心会(同所)が2012年に設立。自社の施設を利用する障害者や高齢者にリハビリと働く場を提供するのが目的で、主に飲食店向けのカットしたネギを販売している。笠岡市の笠岡湾干拓地の借地(約3・5畝)で生産し、近くの自社工場で洗浄やカット加工をした後、笠岡、倉敷市などの飲食店に出荷している。

イチゴは、ネギ農場の一角にビニールハウス2棟(計約8坪)を設置。1月から来年1月にかけて収穫し、約2・5トの収量を見込む。

メモランダム

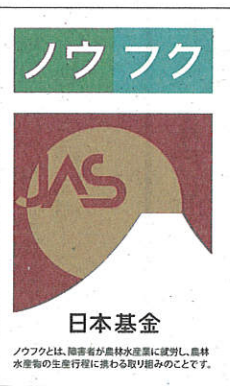
岡山県内で農業に取り組む女性たちを紹介する企画「つながる ひろがる 農業女子」を6月から全5回にわたって担当した。農業分野の取材でさまざまな生産者と出会う中で「実際のところ、女性が農業をやるってどんな感じなんだろうって、素朴な疑問を抱いたのがきっかけだった。就農したばかりの20代から、子育てが一段落した40代までを取り上げて

取材通じ元気もらう

記者自身にとっても、初めて自分で発案した企画だった。取材相手から十分に話を引き出せなかったり、文章がうまく書けなかったりして悩んだ時もあった。ある農業女子の方は、そんな私を見て「大丈夫!」と肩をたたき、自分の経験談を話してくれた。気付けば取材を通じて記者の方が元気をもらっていた。

「ノートを閉じた後に相手の本音が聞けることもある」。入社して間もない頃に上司が話していた言葉だ。今回の取材でも、ノートを広げて話している時より、ほ場まで一緒に車に乗ったり畑を歩いたりしながら聞いたことの方が、本人の心の声に近かった。9月1日付で異動となり、別の部署で取材を進めることになる。企画を担当して改めて学んだ、相手と同じ目線に立ち、寄り添う姿勢をこれからも大切にしたい。(長田桃子)

「ノウフクJAS」PR 販路拡大狙う



ノウフクJASに認証された農産物に表示するマーク

販売は同農園と連携して行う計画。同農園と共同で、ノウフクJASの専用ロゴマークを包装材料などに付けたイチゴを岡山市中央卸売市場へ出荷し、岡山県内の飲食店や小売店などに売り込む。

農林水産省などによると、ノウフクJASの認証はこれまでに全国の36事業者が取得。岡山県では倉敷市などでプロコリーを生産する景山正義さん、NPO法人美作自立支援センター(美作市)を含め、全国最多の4事業者が受けている。

近年は社会貢献などを考えて商品を選ぶ「エシカル消費」が広がっており、消費者への訴求効果に期待する。ど根性ファームの山田浩貴・業務執行社員は「まだ『ノウフクJAS』のマークを知らない人は多い。消費者に手に取ってもらう機会を増やし、制度の認知度を高めて取引の拡大につなげたい」と話している。

ズーム

ノウフクJAS 2019年に農林水産省が日本農林規格(JAS)として定めた制度。商品の付加価値を高めて消費者に訴求しやすくするとともに、農業を通じて障害者の社会参加を後押しする「農福連携」の取り組みを広げる狙いがある。事業者は働く障害者一人一人の特性や能力に合わせた環境づくりや厳格な生産管理などの審査をクリアし、認証を得る。認証取得事業者は対象の農産品などに専用のロゴマークを付けて販売できる。

屋外スペースに 地場飲食店屋台

グランヴィア岡山

ホテルグランヴィア岡山(岡山市北区駅元町)は、地場の飲食店が屋台で出店するフードホール「スタンドスペース岡山」を1階の屋外スペースにオープンした。JR西日本岡山支社(同駅前町)、屋台による開業

気になる商品

今夏は記録的な暑さが続き、残暑も長引きそうだ。冷感スプレーや帽子、首元のリングタイプなど、



暑さ対策グッズ

冷やして繰り返し使える。電源や電池は不要。水とは違って結露せず、首元がぬれる心配もない。ブルーなど



ホテルグランヴィア岡山(岡山市北区駅元町)は、地場の飲食店が屋台で出店するフードホール「スタンドスペース岡山」を1階の屋外スペースにオープンした。JR西日本岡山支社(同駅前町)、屋台による開業